

Bauduin Collection

Photograph Collection of Japan in Bakumatsu-Meiji Period

ボードイン・コレクションとは、幕末・明治に西洋医学の指導者として来日したオランダ人のアントニウス・ボードインが、オランダ領事であったその弟アルベルト・ボードインと協力し、日本滞在中に撮影および収集した古写真アルバムです。
(長崎大学附属図書館所蔵)

ネット上でも閲覧できます。
日本古写真アルバムボードイン・コレクション
<http://oldphoto.lb.nagasaki-u.ac.jp/bauduin/>

幕末・明治を知る西洋の男たち

2

A・J・ボードイン領事

アルベルト・ヨハンネス・ボードインは、養生所(長崎大学医学部の前身)のちに精得館と改称)の第二代教頭アントニウス・ボードインの弟である。一八二九年に五男四女の末子としてオランダのドルトレヒトで生まれた。次兄のアントニウスより九歳年下であった。

一八五五年、二歳上の兄ドミニクスが赴任していたオランダ領東インドに渡り、バタヴィア(ジャカルタ)にあったオランダ貿易会社(NHM)東インド支社に勤務した。麻部門を担当し、フィリピンや中国に派遣されたのち、日本での勤務を命じられ、安政六年(一八五九)三〇歳のとき長崎に到着した。

来日一カ月前に起きた出島の火災のため住む場所にも困ったアルベルトであったが、次第に長崎での生活にも慣れ、商売も軌道に乗るようになっていった。こうして日本での日々の生活をはじめ、再来日したシーボルトや養生所の初代教頭ポンペなどの交流を、アルベルトは詳細にオランダに住む姉たちに書き送っている『オランダ領事の幕末維新』。

ポンペの後任として兄アントニウスに来日を勧めたのもアルベルトであった。ポンペは、任期を終えるにあたって、海軍軍医ファンマンズフェルトを後任に推薦したが、総督府がこれを拒否したためアルベルトの推薦によって兄アントニウスが後任に選ばれることになったのである。

アルベルトはオランダ貿易会社の駐日筆頭代理人として日本での商取引に従事するとともに、文久三年(一八六三)にはオランダの駐長崎領事に任命され、スイス・ポルトガル・デンマークなどの長崎駐在領事にも任命されている。

慶応三年(一八六七)、任期を終えた兄アントニウスはオランダに帰国し、アルベルトも、慶応三年十二月(一八六八年一月)に兵庫(神戸)が開港されると、長崎を去って新たに設置された兵庫の商館に移った。しかし、戊辰戦争が勃発して政権が交代し、オランダ貿易会社もその影響を受けて事業が停滞した。

明治三年(一八七〇)、アルベルトは休暇でオランダに帰国したが、このときオランダ貿易会社は日本での営業体制を見直し、翌年再来日したアルベルトは、横浜の商館に総商館長として勤務す

ることになった。アルベルトの日本での活動の舞台は、長崎から神戸、神戸から横浜へと、日本と外国との交流が本格化するにしたがって長崎から遠ざかっていった。

明治七年(一八七四)、アルベルトは十五年にわたる日本滞在を終えてオランダに帰国し、先に帰国していた兄アントニウスと一緒にハーグで暮らした。ハーグでは日本公使館の書記官として勤務し、一八九〇年ハーグで没した。六一歳であった。



出島の商館長の邸宅に住んでいたボードイン領事。その庭先で撮影されたもの。

Albertus Johannes Bauduin (1829 ~ 1890)

古写真データ

目録番号: 6249
撮影者: A. F. ボードイン
アルバム名: ボードインコレクション(2)
年代: 1865
色彩: モノクロ
形状: 185x222
整理番号: 122 45 0
キーワード: ボードインコレクション

経済学部教授
柴多 一雄
Shibata Kazuo